

令和7年度 with Dam★Night in 東北 2025&現場研修会 開催報告

活性化推進小委員会 東北地区幹事

東北ブロックでは、今年度は例年別日開催であった with Dam★Night と現場研修会を同日とすることで、ダム施工現場の夜間作業も見学するという試みを企画し、開催に至りました。そのため、with Dam★Night、夜間打設を鑑み、集合時間を通常の午前から 13:00 としました。見学場所については宮城県管理の樽水ダム、仙台市に隣接する名取市に建設中の川内沢ダムにて開催いたしました。また、本年度 with Dam★Night は川内沢ダムの建設事務所より中継し、夜嘶 2 題の構成で開催いたしました。その後、with Dam★Night 会場参加の方については、現場見学会の後半として川内沢ダムの建設作業見学をいたしました。



with Dam★Night in 東北 2025&現場研修会 スケジュール

【現場研修会について】

今回は、with Dam★Night、夜間打設における見学者の負担を鑑み、見学箇所は同じ宮城県管理である名取市北部に位置する上水道用水確保、洪水調整等を担うロックフィルダムの樽水ダムと、現在施工中で今年度にてダム堤体打設が終了する重力式コンクリートダム川内沢ダムの近隣した 2か所での見学を企画しました。

当日は秋らしく多少冷え込み、小雨が時折降る天候でしたが、おおむね雨にあたることもなく見学できました。また、両ダムを管理される宮城県の方々、川内沢ダム本体工事に携わる JV 様の円滑なアテンドのもと、現地見学を行うことができました。

今年度は両ダムの最寄り駅となる JR 名取駅西口に 13:00 に集合し、バスにて約 20 分で樽水ダムに到着しました。現地では宮城県土木部仙台地方ダム総合事務所所長 樽水ダム管理事務所長の吉田様に概要説明いただきました。樽水ダムは 1971 年に建設し、建設から 50 年以上経過した建造物だそうです。ロックフィルダムの表面は岩石でリップラップをしているにもかかわらず、年数経過のためでしょうか、リップラップ表面は緑化され、自然と一体となったダム景色を見ることができました。続いて、監査廊見学をさせていただきました。監査廊は予想以上に急勾配の下り階段でした。最下部では、漏水監視についての計測方法等を教えていただきました。下ったわけですから、急勾配の階段を登らなければなりません。50 歳を超えた人間の足腰にかなり堪えたのが印象的でした。管理の方々の苦労を、身をもって体験しました。なお、見学者に気を使っていただき、休憩も兼ね、中間部の施設である地震計設置箇所と最下部溜水のポンプアップ施設箇所にて説明をしていただきました。ダム工学会の名前を借りて、通常見ることができない設備を堪能させていただきました。その後、管理事務所の中でいわゆる「ダムコン」の説明を受けました。下流河川における河道拡大による現在のゲート調整の状況や当時の図面も含め、現在管理するダムの全容について丁寧に教えていただきました。

続いて、川内沢ダム本体工事を請け負う西松 JV 様の事務所にて、現地見学に先立ち、宮城県土木部仙台地方ダム総合事務所の建設班長 遠藤様によるダム事業の全体説明、西松 JV の小野所長による動画を交えた工事概要説明を受けました。昨年同様「見せるダム事業」を掲げていることもあり、工事説明にも CG 動画、定点カメラによる施工状況動画などの要素を取り入れ、わかりやすい説明を受けることができました。

その後、現地見学ではコンクリート製造設備ヤード、堤体を順に見学させていただきました。75% の進捗率を達成しており、堤体は勾配部の打設が終了し、直部の打設に移行しておりました。昨年はまだクレーンヤードより堤体の立ち上がりが見えていない状況でしたが、本年の見学会では、クレーンヤードからはるか上まで堤体が立ち上がっており、1 年の進捗度合いを感じることができました。コンクリート製造設備ヤードでは、150 mm の購入骨材や大型コンクリートバケット、振動締固め機バイバックを見学させていただき、スケールの大きさを感じました。堤体の見学では、昨日打設した箇所のグリーンカットの状況、次打設場所の型枠内部の状況、更には、監査路内部の状況を見学させていただきました。建設中である今しか見ることができない光景を細部まで堪能させていただきました。昨年同様に「見せるダム建設」を現場一丸、チームで作り上げていることがどこを見ても感じ取ることができ、

同じ建設人としては、感動の連続でした。

その後事務所に戻り、with Dam★Nightに先立ち、夕食をとらせていただきました。夕食は、例年同様、宮城県が認定した川内沢ダムのダムカレーです。スパイシーでボリューミーですが、みな完食しており、見学会の後の空腹を十分に満たしてくれました。

with Dam★Nightを挟み、川内沢ダムの夜間作業見学に左岸天端のインフォメーションセンターに行きました。現在、施工中ながら、ライトアップ設備を備えつけ、夜間に幻想的な建設現場が浮かぶ情景を見る事ができました。なお、夜間打設状況については、段取り変更等で見ることができませんでしたが、夜間に作業されている作業状況とその現場の運営状況を教えていただきました。緊急的な状況をいかに克服していくかという現場の醍醐味を見せていただき、現場という生き物の鼓動を大いに感じ、感動しました。

今回の見学会では、将来を担う 6 名の学生の参加がありましたが、その中の 2 名からいただいた感想文を本報文の最後に掲載します。

全参加者は、例年より若干少ない 20 名の参加でした。無事終了することができたことは何よりでした。参加いただいた方から、「なかなか見れないからよかったよ」とお褒めのお言葉もいただき、運営側としても満足な見学会となりました。

開催にあたりましては、宮城県の仙台地方ダム総合事務所および西松・奥田・グリーン企画特定建設工事共同企業体の皆様には、ご多忙のなか、説明や案内など多大なご協力とご配慮をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

<令和7年度 東北地区現場研修会 概要>

1. 開催日：令和7年10月28日（火）（日帰り）
2. 場所：宮城県 樽水ダム（宮城県名取市）、宮城県 川内沢ダム本体工事（宮城県名取市）
3. 参加者：20名

所属	大学関係 (学生)	電気 事業	官公庁	建設 会社	コンサル タント	その他	個人	合計
人数	7 (6)	0	1	4	4	1	3	20

4. 行程

時 間	内 容
13:00	【集合】JR名取駅西口ロータリー_バス降場
13:00~13:30	出発・移動
13:30~14:30	宮城県樽水ダム見学（研修60分）
14:30~15:00	出発・移動
15:00~15:30	工事概要説明および工事状況映像上（研修30分）
15:30~17:00	川内沢ダム 施工現場見学（研修90分）
17:00~17:30	出発・移動・休憩
17:30~18:30	夕食：JV事務所にて
	with Dam★Night
19:55~20:10	出発・移動
20:10~20:25	川内沢ダム 夜間打設見学
20:25~20:45	出発・移動(名取駅へ) 解散
	（研修時間） 3時間

5. 開催者：一般社団法人ダム工学会 主催
公益社団法人土木学会岩盤力学委員会 共催
6. 継続教育（CPD）：3.0単位（認定番号 JSCE25-1210）

7. 写真

	
樽水) 監査廊	樽水) 地震計
	
樽水) 事務所のダムコン	樽水) 集合写真（堤頂部にて）
	
川内沢) 概要説明	川内沢) 下流側
	
川内沢) プレキャストによる監査廊	川内沢) 集合写真 クレーンヤードにて

【with Dam★Nightについて】

1.はじめに

今年度も、ご自宅で楽しめるようweb講演形式で魅力あふれるダムの世界を発見・発信する一夜だけのイベント「with Dam★Night in 東北2025」が開催されました。10年以上続いているイベントです。発信は、現在川内沢ダムを施工している西松・奥田・グリーン企画JVの川内沢ダム出張所からです。今年度は、例年別日開催であった現場研修会との同時開催とし、会場参加の方については、現場見学会として川内沢ダムの夜間作業を見学して頂くという試みを企画しました。

ダムファンを迎えるのは、ダムの第一線で活躍されている皆様や、ダムファンの最高峰の方々です。

今宵はどんな夜話を聞かせていただけるのでしょうか。年に一度、ダムの魅力とともに語り合う一夜限りの「さあ魅力あふれるダムの世界へ」の始まりです。



川内沢ダム出張所の状況

2. 概要およびプログラム

- (1) 日時：令和7年10月28日(火) 18:30～19:45
- (2) 会場：西松・奥田・グリーン企画JV 川内沢ダム建設事務所から発信
- (3) プログラム

プログラム

※敬称略

		司会：加納 実／権神 侑貴 (ダム工学会活性化小委員会 実行委員)	
18:00	開演	角 哲也	ダム工学会 会長
18:30	開会挨拶	北のダムから	ダム愛好家
18:45	夜嘶1： 『歴史に消えた幻のダムを追う』	小野 雄司	
19:15	夜嘶2： 『北の大地に築くダム-東北・北海道での挑戦』	西松・奥田・グリーン企画特定建設工事共同企業体 川内沢ダム出張所 所長	
19:45	閉会挨拶	久田 真	ダム工学会 活性化推進小委員会東北地区委員長
19:55	閉会		

3. 開会挨拶（ビデオメッセージ）

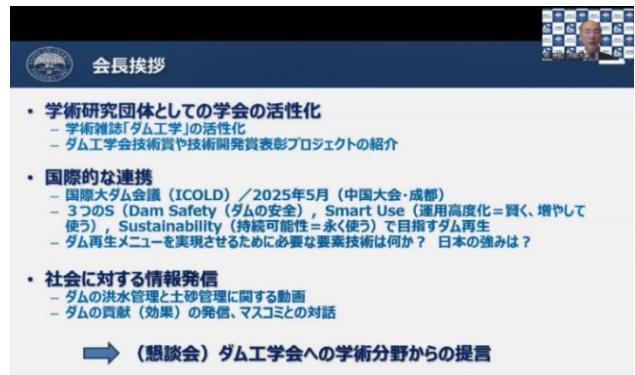
開会に先立ち、ダム工学会会長の角がビデオメッセージにより、開会挨拶を行いました。

挨拶では、ダム工学会の活動方針として、「学術研究団体としての活性化」、「国際的な連携」、「社会に対する情報発信」についての話がありました。

ダム再生の目的を「Safety（安全）」、「Smart Use（運用高度化）」、「Sustainability（持続可能性）」の3S

として提言をまとめ、今年の渴水を例に予測情報を活用したダム運用の高度化や社会ニーズへの対応の重要性やダム工学を総合工学として位置づけ、土木工学に加えて社会学や理学・環境学など他分野との連携の必要性が説明しました。

また、日本河川教育学会と意見交換会が行われ、学校教育におけるダムや河川の教育不足が課題として共有され、川の「流域」という概念や「社会的役割」までは十分に教育されていない現状を指摘が指摘され、感謝教育の観点から、水道や電気などの社会インフラの恩恵を理解させる重要性や教材開発が提案されたこと、日本



角会長のビデオメッセージ

河川教育学会へのポスター発表や展示ブース出展、学生向けのわかりやすい動画制作などの連携活動が計画されていることを紹介しました。最後に、「本日の with Dam★Night を皆様で楽しんで、ダムの魅力について語り合って頂きたい」という期待を込めた挨拶がありました。

夜漸1 『歴史に消えた幻のダムを追う』

北海道のダム愛好家である、北のダムから様から Wikipedia で見つけた謎のダム「丹波生嶺ダム」についてご講演を頂きました。

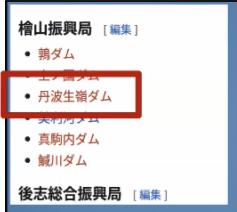
最初はダム名の読み方も位置も不明でしたが、「北海道のダム 1986」という本により、「丹羽生嶺（にわいきみね）ダム」が正式名称であること、檜山振興局管内の現せたな町に存在する堤高 15m の灌漑用アースダムで後志利別川水系・武沢川に建設されたことが確認されたこと、1993 年の北海道南西沖地震で被災し、復旧をあきらめて堤体を開削して廃止されたという論文を発見したこと、国土地理院の 1970 年代の航空写真によりダムの正確な位置が特定され、現地調査へと進むことができたこと等の調査経緯が紹介されました。

また、地方資料から本ダムは、明治時代に会津藩士の丹羽五郎が開拓した丹羽地区の農業用ため池として 1927 年に竣工した施設であり、稻作移行に伴う水需要増加、大雨による亀裂崩壊、公共団体による再建といった歴史的経緯が明らかになったことを説明されました。

現地調査では、道路擁壁やコンクリート構造物の痕跡が確認されたが、堤体本体は完全に撤去されていたこと、開削により作られた水路が護岸工事がされて残っており、周辺の構造物のみが存在している状態であり、地元土地改良区への問い合わせでは、関連書類や当時の職員が残っておらず、詳細な廃止経緯は不明のままであること等をご説明頂き、ダム愛好家ならではの視点による大変興味深い内容でした。

謎のダム

- 丹波生嶺ダムとは？
- 読み方すら不明
- 検索しても情報がない
- 位置・規模など不明
- 檜山振興局管内にある？



北のダムから様の講演の様子

夜漸2 『北の大地に築くダム－東北・北海道での挑戦』

西松・奥田・グリーン企画特定建設工事企業体川内ダム出張所の小野所長様が、ダム現場経験 19 年の中で施工に携われた北海道の庶路ダム、徳富ダム、平取ダム、そして現在施工中の宮城県の川内沢ダムの 4 つのダムそれぞれについて、ダムの形式・諸元、仮設備、コンクリートの打設方法、施工上の工夫、苦労した点、地域行事への参加等について、ダム建設の現場における様々な視点、角度から動画等を交えながら、分かりやすくご説明して頂きました。極寒、豪雪、洪水等、厳しい自然条件の中でのダム建設における安全・品質の確保や生産性向上の取組についてお話しして頂きました。

また、現在建設中の川内沢ダムにおける宮城県農業高校とのコラボレーションによるダムカレーパンの開発・地元パン屋さんでの販売、クリエイターとのコラボレーションによる職員の集合写真や夜景撮影、デジタルダムカードの作成やダム堤体でダムカレー製作動画の作成等、ユニークな取組についてご紹介頂き、長期にわたるダム建設現場における地域貢献、建設業のイメージアップ、職員・作業員の方のエンゲージメントの向上や担い手確保に繋がる大変興味深い内容でした。



小野所長の講演の様子

4. 閉会挨拶（ビデオメッセージ）

東北大大学の久田先生（活性化小委員会東北地区委員長）より、成瀬ダム（CSG ダム）での生産性向上、担い手確保、技術継承、カーボンニュートラル、デジタルトランスフォーメーションの取り組みについてご紹介頂くとともに、インフラの老朽化が進行する一方で未来に向けてインフラ再整備を進めていく重要性についてお話を頂きました。最後にwith Dam Night 参加者への感謝とスタッフへの労いの言葉で締めくくられました。

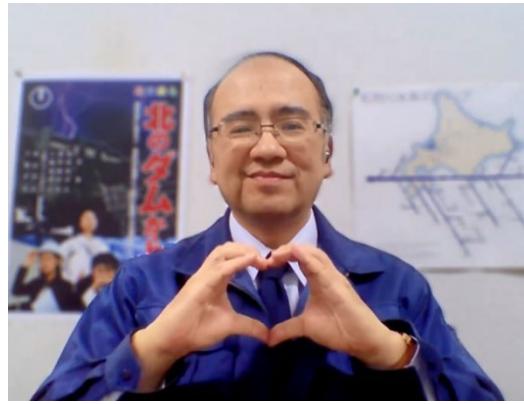


久田先生の閉会挨拶の様子

5. 最後に

今回も遅い時間までダムについて興味深い夜談を聞かせて頂き、ありがとうございました。会場やweb配信を通じてご参加頂いた多くのダムファンの皆様には、コメントや質問を頂き、重ねて感謝申し上げます。今後もダムの魅力に気づき、ダム工学会の活動にご支援を頂きたいと思います。

最後に参加者全員で『ダムLOVEポーズ』をして、当会を終了しました。



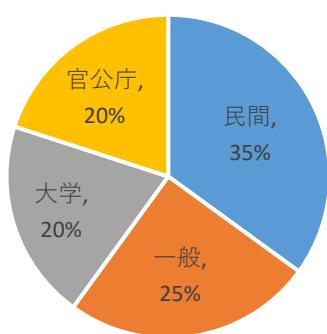
ダムLOVEポーズ

【with Dam Night のご意見・ご要望】

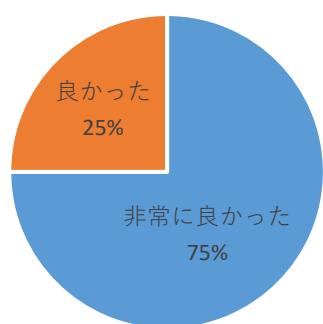
- ・今回もダムの理解が深まりました。
- ・現場見学会とのタイアップは、大変良い企画と思いました。
- ・今回のハイブリット形式(オンラインと対面)での開催が非常に良かったです。これからも対面で交流できる機会が増えればと思います。
- ・来年は現地見学にも参加したいです。
- ・今回参加は出来ませんでしたが、見学会も含めたイベントはホントありがとうございます。現地に参加したいです。
- ・普段見る事ができないダム建設の様子を見る事ができ、とても勉強になりました。
- ・2つのお話よかったです。本体建設は“花形”活性が高くて華があるなと思いました。
- ・川内沢ダムのポスターやPVなどとても良いと思いました。
- ・将来、ダムに関わる仕事に就きたいと考えており、今回の話を聞いて、将来が楽しみになりました。
- ・今年も興味深い企画、スムーズな運営ありがとうございました。
- ・来年も期待しています。

【アンケート結果】

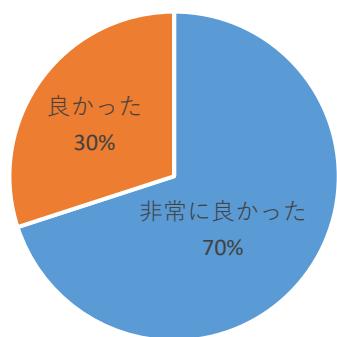
所属について



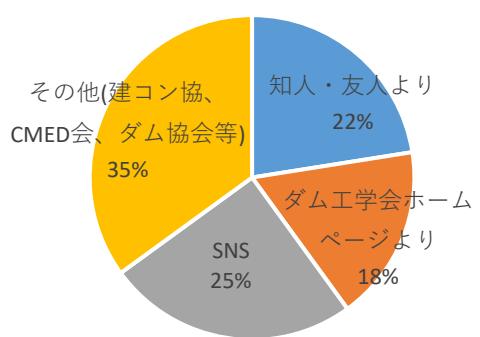
本日の感想



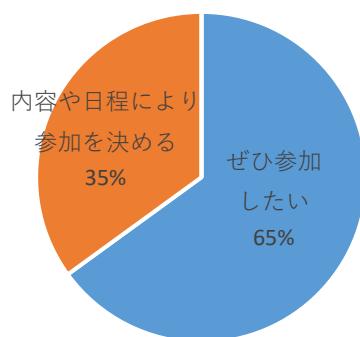
Web開催について



本イベントをどこで知りましたか



今後イベントには参加したいですか



アンケートにご協力頂き、ありがとうございました。アンケート結果も踏まえて、来年度も企画したいと思います。

(with Dam★Night in 東北 2025、現場研修会の参加者による感想文)

●日本大学工学部 池田盛隆

今回、樽水ダムと建設中の川内沢ダムの見学に参加した。樽水ダムでは普段入ることが出来ない監査廊に入った。監査廊内は高低差がすごく、樽水ダムの高さを感じた。監査廊内では、地震計測器や流量・濁度を調べていると知った。管理事務所では放流するための仕組みなどを聞いた。私は3ヶ月前に川内沢ダムに行った。3ヶ月前とは堤体の高さが全く違っていて驚いた。そして、川内沢ダムはプレキャストコンクリートで建設されていて、監査廊内はとても温かかった。普段、ここまでダムに近づけることがないので、とても嬉しかった。

with Dam Night では、北のダムからさんは地図には載っていない丹羽生嶺ダムについて、小野さんからは今まで建設に携わったダムについて話を聞いた。丹羽生嶺ダムは北海道にあり、ネットで調べても詳しい記載がされていないにも関わらず、現地まで行き実際に丹羽生嶺ダムを見つけた。この行動力が流石だと感じた。私も北のダムからさんのように東北で探したい。小野さんからは、プレキャストコンクリートを使用した徳富ダム、堤内構造物が多い平取ダム、現在建設中の川内沢ダムについて話を聞いた。ダムを建設することは大変だと知っていたが、その土地の気候や洪水対策も考慮して建設していると分かった。

私は将来、ダムに携わる仕事に就きたいと考えており、今回の樽水ダム、川内沢ダムの見学や with Dam Night の北のダムからさん、小野さんの話を聞いて、より一層ダムに興味が湧き、ダム関連の入社意欲が増した。このような貴重な体験ができ、楽しく学べた。ありがとうございました。

● 東北大工 工学研究科 鈴木 志門

仙台で開催される with Dam Night には、私が学部1年生だった2019年から参加させていただいております。当時は東北大工・青葉山キャンパスの講義室にて、対面で開催されました。翌年の新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2020年は中止、2021年以降はWeb上で開催となりました。オンラインで参加できるようになったことで、遠方に住む方々も気軽に交流することができ、この with Dam Night が年々活発になっていると感じております。そして今年は対面とオンラインのハイブリッドでの開催となり、久々に対面で参加することができて非常に嬉しく思います。現場見学会では、普段見ることのできない樽水ダムの監査廊や管理所等を案内していただきました。また、川内沢ダムの建設現場を間近で見学することができ、特に打設中の堤体の上に立たせていただいた時は、一番興奮した瞬間となりました。今まで訪れたダム建設現場の中で、あれほどダムに近づいたことはなかったので、見学を主催してくださった方々の懐の大きさを感じました。With Dam Night の開会前には川内沢ダムカレーをいただきました。ダム湖（カレールー）が赤く、少し辛かったですが、とても美味しかったです。今年の夜漸は、北海道を活動拠点とするダムマニアの方による「消えたダム」のお話と、北海道・東北地方のダム建設に携わった方によるお話を聴講いたしました。我々とは異なる、変わった視点からのダム話は、大変興味深く聞くことができました。最後に、現場見学会及び with Dam Night の企画、実行に携わったすべての方々に感謝いたします。